

減災  
講座

まとめ

Vol. 7

防災・減災の活動は、それ自体が目的である

減災  
研究会を  
終えて

本連載の開始と並行して、これからの時代における防災・減災のあり方を自由に議論するため、若手の防災・減災研究者と大阪ガス(株)による「減災研究会」を立ち上げた。本連載を単なる共同執筆に終わらせることなく、研究会での議論を各講座に反映したり新しい人的ネットワークを構築することを目的とした。これまで5回の研究会を実施したが、最大公約数としての、コアとなるコンセプトについてはかなり明確になってきたように思われる。それは、「防災の価値とは、被害を減らすことそのものにあるのではなく、プロセスそのものにある」という考え方である。

防災とは、読んで字のごとく「災いを防ぐ」ということであるから、被害を減らすことに防災の価値はない、というのは非常に逆説的である。それでもこれまでの研究会メンバーの論考にはそうした考え方がちりばめられている。

元吉論文(108号「減災講座」Vol.5)によれば、「被害を減らすための」活動は心理学によれば「予防焦点」と呼ばれ、本当に被害が減ったのか実感できず、持続しにくいことが指摘された。したがって、持続可能な活動のためには、防災の活動そのものに喜びが感じられる(これは「促進焦点」と呼ばれる)ようにならないことが指摘された。越山論文(本号54頁「減災講座」Vol.6)は、今日のまちづくりにおいて計画的な手法の限界を明らかにし、むしろまちづくりのプロセスにおける創発性の重要性が指摘されている。近藤論文(本号58頁「減災講座」Vol.6)は「リアリティの共同構築」という概念を用いて、情報の発信者と受信者の間で「互いに歩み寄って、ともに『リアリティ』をつ

関西大学  
社会安全学部  
准教授

永松 伸吾

Nagamatsu Shingo

大阪大学大学院国際公共政策  
研究科中退。同研究科助手、神  
戸人と防災未来センターなどを  
経て現職。専門は公共政策・防  
災・減災危機管理・地域経済復  
興。主著に『減災政策論入門』  
(弘文堂)、『キャッシュ・フローワ  
ーク』(岩波ブックレット)など。

くっていく連帯」の必要性を説いている。山崎論文(108号「減災講座」Vol.6)では、防災の法制度が具体的な行動を規制するものではなく、防災の一連のプロセスを支えるものへと変化していることが示されている。

そもそも、災害とはなんだろうか。大きな被害が生じていることは必要条件だとしても、個別の被害がいくら集合しても災害と呼ばれることはない。例えば交通事故死は近年減少してきたとはいえ、それでも未だに4000人を超える方々が毎年亡くなっている。我々はこれを災害と呼ぶことはない。しかし、これがある時間、ある地域に集中して発生すれば、我々は通常それを災害と呼ぶ。ということは、災害と呼ばれるための必要条件は、ある時期に、ある一定のエリアに被害が集中することと言って差し支えないだろう。すなわち、災害とは地域社会そのものに深刻なダメージをもたらすということと同義であり、その意味でコミュニティの急激な変容や崩壊といったリスクは、災害固有のリスクだと言ってもよい。そうしたリスクとどう折り合い、地域のつながりを維持しつつ、我々の暮らしを守っていくかが、まさしく本質的な防災や減災の意味に他ならない。

阪神・淡路大震災の後、自助・共助・公助という言葉がしばしばよく使われるようになり、防災におけるそれぞれの割合が7・2・1というような言説も聞かれた。だが、コミュニティのリスクこそ災害固有の問題だと考えると、あまりに自助に偏重していると言わざるを得ない。むしろ、これから先必要なことは、「みんなのリスクをみんなで作る、みんなを守る」といった発想であり、そのために人々がつながって、災害に対する関心を持ち続けていくことではないか。そう考えると、防災・減災の活動には終わりがあるわけではなく、活動そのものに重要な意味があるということも理解できるのではないだろうか。そのことは、本研究会のスポンサーである大阪ガスが掲げる「Save Ourselves」にも通じる考え方であると思う。

災害とそれによってもたらされるリスクに

私たちはどう向き合い、

被害を最小限にとどめるにはどうしたらよいか。

「減災講座」では、こうした問題意識のもと、

さまざまな角度から最新の知見を

減災活動に役立てる可能性について探ってきた。

防災・減災活動に終わりはなく、人々がつながり、

災害に対する関心を日常的に持ち、

活動を続けることそのものに重要な意味がある。

Hatayama Michinori

Motoyoshi Tadahiro

Nagamatsu Shingo

Koshiyama Kenji

Yamasaki Eiichi

Kondo Seiji

研究会参加者

永松 伸吾 関西大学社会安全学部准教授

山崎 栄一 関西大学社会安全学部准教授

元吉 忠寛 関西大学社会安全学部准教授

越山 健治 関西大学社会安全学部准教授

近藤 誠司 関西大学社会安全学部助教

畑山 満則 京都大学防災研究所准教授